

近刊  
予告

海風社「南島叢書」100号記念

飢餓・搾取・差別の  
三重苦を生きた

奄美近現代——出稼ぎ・移民考

# 南島 ピポ ー プト ル

原井 一郎著

南島叢書 100  
定価 (2400 円+税)  
並製・A5 判・300 頁  
ISBN978-4-87616-069-3

## 【目次】

はじめに

プロローグ〈ある出稼ぎ者の孤独死〉

第一章 売られゆく貧者の群れ

第二章 “砂糖地獄” を生きて

第三章 近代のとば口で

第四章 近代の犠牲—女工悲劇

第五章 大正・昭和の大流出

第六章 阪神と奄美人

第七章 海外棄民と犠牲 (「玉砕の島」から「長崎被曝死」まで)

第八章 戦後を生きる (基地オキナワと密航)

第九章 現代の都市奄美人 (島唄活動家、西成に生きる、抗う生コン労組闘士)

第十章 「出稼ぎ世」を追って (過去と現在への問いかけ)

対談※「奄美近代『流民化』のインパクトと国際化時代

—中西雄二 (東海大文明学科准教授)

原井 一郎 (はらい いちろう)

1949 年生まれ。奄美の地元日刊紙の南海日日新聞、大島新聞記者・編集長。

雑誌 Lapis ライター。ジャーナリスト。奄美市名瀬在住。主な著書に『奄美の四季』(農文協 1988 年)、『甘い砂糖』(高城書房 2005 年)、『欲望の砂糖史』(森話社 2014 年) 共著に『国境 27 度線』(海風社 2019 年) 他。

収録対談 × 中西 雄二  
(東海大学准教授)

奄美近代「流民化」の  
インパクトと国際化時代

海風社は、奄美諸島のなかの徳之島を出自とする作井満(さくいみつる)が、南島叢書をメインのシリーズに据えて、1981年に図書出版海風社として創業しました。以来、近代的な日本語文脈が取り残してきた、沖縄・奄美領域を丁寧に掬い取るという南島叢書の刊行の精神を受け継ぎ、読者の皆様に良書をお届けすべく、日々努力を重ねてきました。そして1982年の南島叢書第1号の刊行から42年、その半歩の中によく100号の到達をみるに至りました。今後も愚直に歩みを続け、さらなる高みを目指します。ご支援ご愛読ください。



海風社

〒550-0005 大阪市西区西本町 2-1-34 SONO 西本町ビル4B  
☎06-6541-1807 FAX 06-6541-1808

● 2018年南海日日新聞長期連載(44回)一挙掲載! 緻密な取材と丁寧な資料の読込から得られたエピソードの数々……

奄美復帰から70年、知られざる歴史を拓く。

南島叢書 98

# 国境27度線

定価 1,800円+税 並製・B6判 256頁

原井 一郎 / 齊藤 日出治 / 酒井 卯作 (著)

戦後、反米一大闘争で日本復帰を果たした奄美群島。だがその抜け駆け復帰で沖縄とは隔たりが。

「奄美人は幸せになれないだろう」。民政長官の冷徹な予言通り、米軍政は奄美に執拗な迫害を加え続けた―。

栄光で語られがちな奄美と沖縄の復帰。

その裏面史に光を当て、さらに経済学、民俗学の視点も加え、「国境27度線」を検証する!

密貿易の女王」  
その下の協力者は沢山いました。つまり情報提供者です。CICは貿易には関心がなかった。関心があったのは外から入ってくる人物。スパイは密貿易船を使って移動したりしますからね。そういうことに神経質になっていた。当時の八重山の協力者は三十人位おりまして。トッパが学校の先生で、次は財界人と政治家。なぜかって? そりゃ色々便宜を図ってもらえるからだよ」(奥野修司『ナツコ 沖縄密貿易の女王』)

CICとはいったい誰か  
「『泉芳朗が赤くさくさくなった。近いうち思想転向するかもしれない』。奄美大島復帰対策協議会(一九五二(昭和二七)年)を立ち上げた自由主義者・泉と筋金入りの共産党員・中村安太郎の急接近は、CIC(米陸軍参謀二部防諜隊(Counter-Intelligence Corps))やその手先の諜報関係者を色めき立たせた」(とにかく米軍上層部では奄美の復帰運動が共産主義者の扇動によって巻き起こったという思い込みがあって、とりわけCIC関係者の間で根深かった)、『炎の航跡』



原井 一郎 (はらい いちろう)  
1949年生まれ。奄美の地元日刊紙の南海日日新聞、大島新聞記者・編集長。雑誌Lapizライター、ジャーナリスト。奄美市名瀬在住。  
『奄美の四季』(農文協1988年)、『苦い砂糖』(高城書房2005年)、『欲望の砂糖史』(森話社2014年)他。

齊藤 日出治 (さいとう ひではる)  
1945年生まれ。社会経済学・現代資本主義論専攻。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。元・大阪産業大学経済学部教授、大阪労働学校・アソシエ学長。『グローバル化を超える市民社会』(新泉社2010年)、『帝国を超えて―グローバル市民社会論序説』(大村書店2005年)、『空間批判と対抗社会』(現代企画室2003年)、『国家を超える市民社会』(現代企画室1998年)他。

酒井 卯作 (さかい いうさく)  
1925年長崎県西彼杵郡西海町(現・西海市)生まれ。民俗学者。1950年坪井洋文とともに民俗学研究所の研究員となり、柳田国男と出会う。南島研究会や稲作史研究会などの旅で、柳田のカバン持ちとして同行、薫陶を受ける。南島研究会主宰。2023年逝去。  
『稲の祭』(岩崎書店1958)、『琉球列島における死霊祭祀の構造』(第一書房1987第28回柳田賞受賞)、『柳田国男と琉球『海南小記』を読む』(森話社2010)他。

## ご注文票

お名前		南島叢書 100 南島ポートピープル 定価2640円(2400円+税)	冊	南島叢書 98 国境27度線 定価1980円(1800円+税)	冊
ご住所					
お電話					

# 海風社

〒550-0005 大阪市西区西本町 2-1-34 SONO 西本町ビル4B

☎06-6541-1807

http://www.kaifusha.co.jp/

# FAX 06-6541-1808

弊社HPからご注文できます / Amazonでもお買い求めいただけます